

伊藤樹里 「憲法絵本を語る」

「憲法絵本」は、奈良弁護士会が作成した子どもから大人まで、誰でも親しめる言葉で書かれた絵本です。一人ひとりがいのちを大事にしながら、自分らしく生き、幸福になっていく権利がうたわれています。それを伊藤樹里が存在をとおして語りかけます。

伊藤樹里

たんぼの家のアーティスト。語り、書などさまざまなところで独特の才能を発揮している。わたぼうし語り部コンクールで入選、書は日本だけでなく海外でも展示され多くの人の心を惹きつけた。気が付くとホワイトボードに一日の出来事をびっしり書き連ねている。スタッフやメンバーのためにパンを焼いてくれることも。プールではビート板を使って立ち止まることなく1キロ泳ぐことができる。その間ずっとしゃべり続けている。「鳥谷くん、アンディ・シーツくん、八木くん」らが好き。手がいつも暖かい。



上野和子 「SUPER VOICEによる語り—わたしの人生」

人は小さなころSUPER VOICEを使って世界と通じあっていました。けれども、大きくなるにつれ、それを使わなくなりました。感じる心がなえてしまったからです。上野和子、61歳、生きて、生きて、生き抜いた人生を詩によって語ります。詩には人生に意味を与え、光輝させる魔法の力があります。

上野和子

奈良市在住、1981年からたんぼの家のメンバー。1988年から一人暮らしを始め、現在はコットンハウス(福祉ホーム)での生活を満喫中。食べること・歌うこと・絵を描くことが好き。また、パソコンを使い、友達とメールで話しをすること、詩や物語を書くことが得意。



「JURIX」

伊藤樹里は“偏愛のアーティスト”といわれています。文字の制作、薬の殻集め、一日4回のラジオ体操、ラジオ深夜便のチェック、お風呂での語りの練習・・・いずれも好きなもの、こだわっているものです。伊藤いわく「わたしのだいじなお仕事」。生きていることが、だいじなお仕事である「JURIワールド」を。

JURIX

伊藤樹里の存在をさまざまな人・メディアでミックスさせるプロジェクトとして、2001年に奈良ではじまった。その後、京都・大阪などでアーティストや映像作家、写真家とコラボレーションしながら、各地で伊藤のこだわりの日常生活を再現。語り部としての毅然とした態度とは対極にあるユルさにハマるファンが急増している。



福角幸子×江崎将史 「SWINGするふたり」

語り、芝居で表現者として活躍する福角幸子と、音遊びの名手、江崎将史の境界に遊ぶコラボレーション。音とことばが軽やかに行き来するさまは、遊びのようであり、対決のようであり。ふたりの間に漂うのは異様なまでの緊張感。ことばが意味を超えたり、音が意味をもったり、ものごとが解体されてはつくられてゆく。その行きつく先は？

福角幸子

語り部として公演活動を行っている。わたぼうし語り部コンクールで、グランプリ、アートのオリンピック「デルフィックゲーム 済州島」にて特別賞をそれぞれ受賞。エイブルアート・オンステージ「血の婚礼」(東京)で演劇に、循環プロジェクトでコンテポラリーダンスに参加。アートリンクでは江崎将史氏と共演。神戸市民劇団「ヴィンテージ」に所属。わたぼうしコンサート、ジャズシンガー、ハーブ奏者、その他いろいろな人と共演。これからも様々な分野の人とコラボしていきたいと思っている。可能性に向かってチャレンジしていきたい。



江崎将史

トランペットや生活廃材による“小さな音”の即興や“みかけ”による“だまし”、“かな”の解体などの作曲活動。作曲作品に「11×11」シリーズ、「オセロ」、「そば・うどん・きしめん」など。「しりとり」シリーズ、は福角幸子さんとの共演がきっかけ。他、「アキピンオケストラ」を主宰、貝つぶとの生活廃品ソロを長時間廻すデュオ「対極」、オルガンとトランペットなど3人によるスカバンド「popo」、宇波拓の「HOSE」、神戸の「音遊びの会」での活動などがある。

